



「生き方を学び合おう、高め合おう」

－生徒も先生も保護者も－

学校便り

白山市立松任中学校

令和6年9月9日

第9号

令和6年度学力調査の結果について

4月に3年生を対象に行われた学力調査における本校の状況をお知らせします。

学校では、学力調査の結果について分析・考察を行い、「確かな学力」を身に付けられるよう、これまでの学習指導を振り返り、授業の改善に努めてまいります。

なお、3年生には個人の結果が返却されております。



◇教科に関する調査◇

分析・考察および今後に向けて

教科	分析・考察	今後に向けて
国語	<ul style="list-style-type: none"> 全体の無解答率が低く、普段の授業で粘り強く活動に取り組む力を身に付けた成果と思われる。さらに、「書くこと」の設問でも、<u>身に付けた表現技法の知識を活用して、自分の考えが伝わる文章を書くことができていて、正答率が高かった。</u> 最も誤答が多かったものは、「みちたりる」を「満ち足りる」と解答する問題で、「満足」という熟語を知ってはいても、知識が不十分で、訓読みに対応できなかったのではないかと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に活動に取り組んで、つけたい力が確実に身に付くよう、指導を焦点化する授業を継続する。 語句の知識を主体的に増やしていけるように、漢字や語句の知識について教科書教材での学びだけでなく、新出漢字や新出音訓を学ぶ際に教師による興味を持たせる説明や、様々な方法で調べる行動の大切さの指導を継続する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> <u>複数の資料から根拠を読み取り、自分の言葉で表現する問題は一部、正答率が高い。</u> 県平均と比べて、知識・技能を問う問題について、正答率が低い。 地理的分野の方が歴史的分野よりも正答率が高い。歴史では、近代の問題の正答率が低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る力を鍛えるだけでなく、それぞれを関連付けて、社会的事象を説明させる授業を展開する。 授業中に小テストをするなど、前時の知識を定着させる場面を設ける。 次時に扱う用語を家庭で調べてくるなど、復習だけでなく、予習を行うよう指導する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> <u>複数のグラフから傾向を捉え、説明する問題では正答率が高かった。</u> 最頻値の意味や四分位範囲など数学用語の意味理解が十分ではない。 記述式の説明問題では、無解答率の高い問題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識技能を高めるために、音声計算やeライブラリなどを利用した問題演習の時間を取ったり、小テストを活用して、知識技能の習得を意識させたりする。 家庭学習をする際には自分の習熟度に合わせて取り組む問題を選択できるように指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科で学習する内容と日常生活に関わる内容について、「<u>刺激による反応</u>」の問題は<u>正答率が県平均と比較して高くなっていた。</u> 身の回りの物質について、モデル化したり、記号を用いて抽象化したりして考える内容の問題では正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも日常生活における現象と学習内容を常に関連付けることで、生きた知識の定着をはかる。 化学分野では物質を粒子モデルに置き換えることを多く取り入れ、日常の物質の変化を単純化して考える力を身に付けさせることで生きた知識として定着させたい。

英語	<ul style="list-style-type: none"> 身近な単語や数字が書かれた表を見て、<u>選択肢から正確に表された文を選ぶ問題はよくできていた。</u> be動詞の現在形を用いた英文の理解が十分でない生徒が多かった。 社会的な話題を扱った文章を読んで、自分の考えを書く問題では、無回答率が高かった。書き手の意見などを十分に読み取れていないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な文の構造を的確に捉える力をつけるために、帯活動として既習表現を用いた単文の英作文に取り組む。 まとまりのある英文を書く力をつけるために、読んだことや聞いたことに対して自分の考えや意見をもつ機会をより多く設けて、1文だけで終わらず、理由とともに2～3文以上書けるように練習する。
----	--	---

◇質問紙調査（抜粋）◇

①結果

【「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒】

☆自分や将来の夢についての質問☆	令和6年	令和5年
自分には、よいところがあると思う。	○83.5%	82.0%
将来の夢や目標を持っている。	▼63.7%	67.7%

☆携帯電話・スマートフォンに関わる質問☆	本校	県平均
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。	3時間以上	
	29.7%	25.9%
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	肯定的回答	
	▼66.1%	70.0%

☆家庭学習に関わる質問☆						
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。						
時間	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
本校	6.6%	10.4%	35.4%	28.8%	16.0%	2.8%
県平均	3.8%	15.7%	39.8%	26.2%	10.1%	3.8%

②分析・考察および今後に向けて

分析・考察	今後に向けて
<p>《<u>将来の夢や自分について</u>》 自己肯定感が高い生徒が昨年に比べ、増加した。 将来の夢や目標を持つ生徒の割合は昨年に比べ、やや減少しており、体験活動や、自己理解の機会が十分ではないと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育学年指導目標（1年：自分を知る、2年：社会を知る、3年：進路を選択する）に基づき、計画的に自身の将来について考える機会を設定する。 外部人材の活用を通して、働く大人に関わることで、働くことの意義を感じたり、より具体的な夢を抱いたりできるようにする。
<p>《<u>携帯電話・スマホについて</u>》 平日に動画視聴するために携帯電話やスマホを長時間使用する生徒の割合が高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話やスマホの適切な使い方について考えるために、生徒会が中心となり、全校生徒を対象として「勉強時間とメディア時間」の調査を継続する。
<p>《<u>家庭学習について</u>》 家庭学習時間に1時間以上取り組む生徒は、県平均より約7ポイント少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣を身に着けるために、毎日の自学ノートやシート学習を継続する。 計画的な学習方法を身に着けるために、定期的に学習コンテストや小テストを継続して行う。 